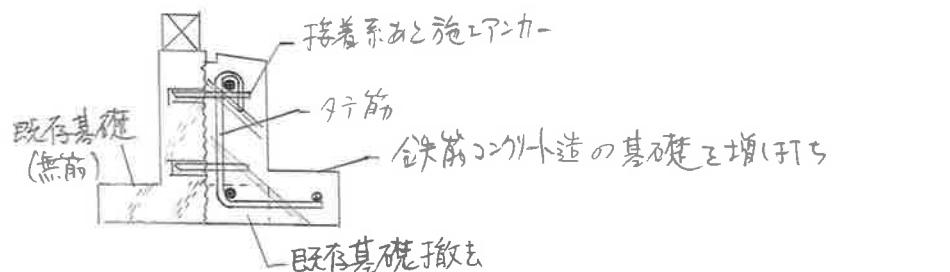


## 令和2年NO.10.既存木造耐震組建物の耐震性の向上

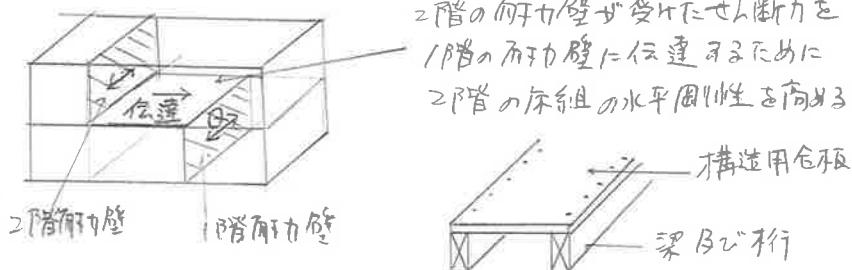
- 既存の無筋コンクリートの布基礎に対する補強 → 新たに鉄筋コンクリートの基礎を増打ちする
- 不同沈下が生じた基礎に対する補強 → 基礎の剛性、強度を高める事や、地盤の補強を行なう
- 1.2階の耐力壁がすべて設置されてる場合の床の補強 → 構造用合板を梁及び不行に直張りで床組の水平剛性を高める
- 屋根葺き材が日本瓦である場合の軽量化 → 屋根を軽量化することで建物に作用する地震力を減らす事により耐震性の向上に有効である

### 1. 既存の無筋コンクリートの布基礎に対する補強

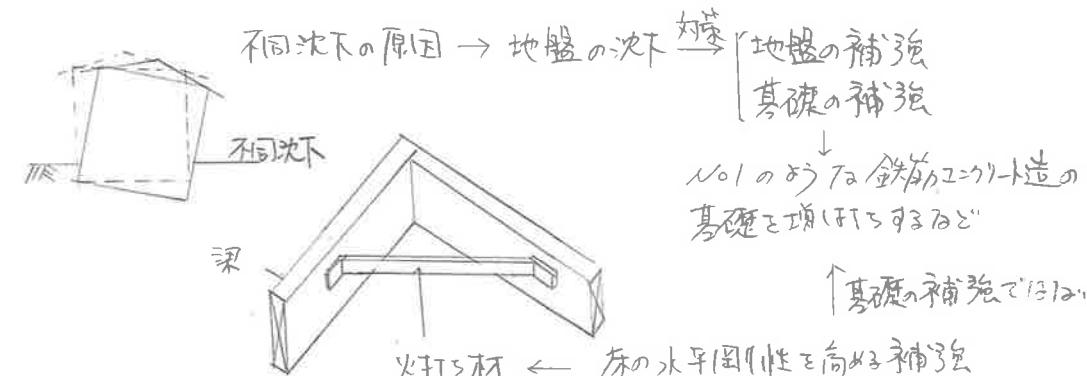
上部構造を支える十分な剛性・強度を有していないため  
鉄筋コンクリート造の基礎を増打ちする



### 3. 1.2階の耐力壁がすべて設置されている場合の床の補強



### 2. 不同沈下が生じた基礎に対する補強



### 4. 屋根葺き材が日本瓦である場合の軽量化

重い屋根 → 良く揺れる

軽い屋根 → 揺れにくい

